

学力向上 通信

2024.01.19(金)



勉強するのは
何のため？

今回の通信では、日本の哲学者・教育学者として有名な苦野一徳さんの著書『勉強するのは何のため？』を紹介します。

誰もが考えたことがあるであろう「なんで勉強せなあかんの？」という問いについて、本書ではこう書かれています。一部抜粋します。

だれにも共通する、勉強の意味。それっていったい、なんでしょう？

勉強するのは、最も根本的には〈自由〉になるためなのです。ここでいう〈自由〉というのは、「生きたいように生きられる」ということです。もうちょっとというと、できるだけ納得して、さらにできるなら満足して、生きたいように生きられているという実感のこと。

「生きたいように生きたい」と思わない人がいるでしょう？

好きな音楽をやって暮らしたい、好きな人と一緒に暮らしたい、遊んで暮らしたい、有名になりたい、できるだけ静かに暮らしたい……。

もっとも、「こう生きたい」があんまりないとか、漠然としていてよくわからないとかいう人も、中にはいると思います。でもその場合も、「こう生きたくはない」というのはあるでしょう。一生いじめられつづけるとか、一生休みなして働くとか、そういうふうにはいきたくない、というものはあるでしょう。

〈自由〉に生きるためには、必ずなんらかの「力」がいるのです。

たとえば、読み書き算ができなかったとしたらどうでしょう？きつと、電車に乗ることも買い物をするのも困難でしょう。そればかりか、契約書が読めないばかりにだれかにだまされて、まるで奴隷みたいに働かされてしまうことだってあるかもしれません。

もちろん必要なのは、読み書き算などの基礎的な「力」だけではありません。学者になりたいのなら、膨大な「知識」がいるでしょう。世界で活躍するビジネスマンになりたいのなら、外国語力や世界についての「教養」がいるでしょう。

わたしたちにとっての勉強の意味っていったいなんだろう？

——それは最も根本的には、〈自由〉にしてくれる「力」を身につけることだ、と。

この通信を書いている私、加山も「勉強してきてよかったな～」と思うことが多々あります。勉強してきたことによって自分にできることが増え、人生の選択肢をたくさん持つことができるようになりました。その結果、幸せに生きることにつながっています。(RPGゲームで、レベルが上がるにつれて、強い敵を倒せたり、たくさんのアイテムを手に入れたり、いろんな場所に進めるようになる感覚？笑)

また、勉強をすればするほど「脳のメモリー量や処理能力」を高められ、これらは大人になっても生きてくるものだと考えています。

最後に、学力向上の担当をしている他の先生にも「勉強すること」について考えを述べてもらいました！参考までに(^^)

学力を向上させるには、様々な方法がありますが、私は、10倍努力するよりも10倍好きになった方が早いような気がします。

下川

「勉強する」というよりも「脳を使う」ということに意味があると思います。身体を動かすと、健康になったり大きくなるのと同じで、成長しているこの時期に脳をたくさん使うことによって、色々な考えを持てるようになったり、記憶力がよくなったり、脳が健康になれると思っています。

取達